

# 第3期宮前区区民会議 第11回地参知笑部会

～ 地域の魅力を知り、地域社会への参加につなげ、笑顔あふれるまちに ～

日時：平成24年1月27日(金)18:00～20:00

場所：宮前区役所2階地域振興課奥会議室

## 次 第

- 1 提案の検討について
  - (1)みやまえ情報サポーターズ養成講座
  - (2)雑誌のスタンプラリー等
- 2 宮前区区民会議フォーラムについて
- 3 その他

### 【配布資料】

- 資料1 第3期宮前区区民会議提案(案)
- 資料2 みやまえ情報サポーターズ養成講座プログラム(案)
- 資料3 平成23年度 宮前区区民会議フォーラム 進行について(案)

## 平成24年度 みやまえ情報サポーターズ養成講座 プログラム(案)

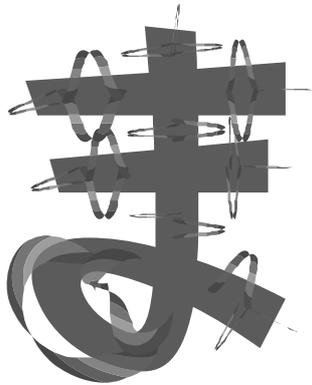
回数	月	日	テーマ	サブテーマ(仮)	講師
第1回	5	10	オリエンテーション	こんな雑誌を作ります、チーム分け	第3期区民会議委員
第2回	5	17	雑誌ができるまで・・・	企画・取材・編集...	マイタウン岩倉編集長
第3回	5	24	ライター的心得(現場記者の本音)	取材7つ道具と1ポケット	講師 タウンニュース記者
第4回	5	31	フリートーク(企画・編集会議)	これから作る雑誌について、レイアウトイメージ、取材場所やインタビューの対象者等について検討	・講師 タウンニュース記者 タウンニュースデザイナー ・区民会議委員
第5回	6	14			
第6回	6	28	実技 同行取材 (3チームに分かれて取材)	プロの取材活動を見学(実際の記事として、掲載されるかも...)	講師 タウンニュース記者
第7回	6月 取材活動と編集		3チームに分かれて取材と原稿作成		・講師 タウンニュース記者 タウンニュースデザイナー ・区民会議委員の取材協力 ・企画課、市民館職員が各チームをサポート
第8回			3チームに分かれて取材と原稿作成		
第9回			作成原稿の報告と追加取材について講師からアドバイス		
第10回			3チームに分かれて取材と原稿作成		
第11回			作成原稿の報告と講師からアドバイス		
第12回	10		版下原稿の発表	各チームの汗と涙の結果	講師 タウンニュース記者
第13回	11		ソーシャルメディア	新しい時代の情報伝達方法	講師 未定
第14回	11		実技 動画配信	オリジナル動画を世界に発信	
第15回	12		閉講式(雑誌発刊)	今後の活動について・・・	区民会議委員

いずれも木曜の午前10時～午後0時

直接か電話で宮前市民館にお申し込みください。住所面参照。

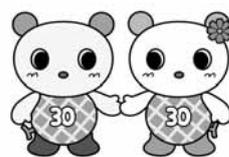
15回の講座で、雑誌ができちゃうんです。一緒に作りませんか？





第 3 期  
宮前区区民会議  
報告書

宮前区区民会議  
平成 24 年 3 月



ミヤマエキヨウダ  
宮前兄妹



宮前区誕生30周年  
絆を深めてもっと大好きなまちへ

“宮前区らしさ”と“地域特性”を活かしたコミュニティづくり  
～宮前区を「住む」から「暮らす」まちへ～

平成 17 年「川崎市自治基本条例」が施行され、第 22 条「区民会議」の規定により、平成 18 年度から各区に区民会議が創設されました。区民の参加と協働による区の課題解決のため調査審議し、解決策を提案することが区民会議の役割です。

宮前区の人口は既に 22 万人を超え、この規模は地方の県庁所在都市に比肩しています。区民がまとまり、自治を向上しなければなりません。区民会議はこれらの意味でも重要で、認知度も高め、提案を実現させることが肝要です。

昭和 40 年代以降に新しく開発された宮前区では、都市内における地域コミュニティの活性化が課題となっており、区民会議では第 2 期に引き続いて第 3 期でも中心テーマとなりました。そして、“宮前区らしさ”と“地域特性”を活かしたコミュニティづくりの展開として、①多摩丘陵に位置し坂道が多い宮前区の地形と、②新住民が多い近郊住宅地という 2 つの地域特性に着目しました。

坂道はこれまで宮前区の弱点でしたが、逆の発想でこの坂道を活用し、まちの魅力や健康増進などの活力づくりと、区民の地域参加につなげたいと考えに到りました。区内には古くからの坂や公募で愛称をつけられた坂など 38 箇所あります。目黒区や座間市など、他地域の取組を参考に、坂道周辺の資源も活用したマップ作りを中心に据え、ウォーキングコースの作成やイベントなどで区民の健康づくりや地域参加を促すことを提案しました。

また、典型的な都市近郊住宅地である宮前区では、住民の転出入が多く、「住んでいるだけ」、「寝に帰るだけ」の、いわゆる「川崎都民」の比率が高いといわれています。これらの人々にまずは地域に興味を持ってもらい、イベントの参加など地域で楽しむことで地域社会とのつながりを広げることが必要と考えました。そこで、宮前区の生活の楽しみ方やまちとの付き合いを紹介することで、地域への興味を深め、人との交流、地域への参加を促す方策を提案しました。

第 3 期宮前区区民会議（平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月）での調査審議の総括を、「第 3 期宮前区区民会議報告書」としてここにまとめました。区民会議からの提案を契機に、宮前区が「住む」から「暮らす」まちへ変化することを願っています。

平成 24 年 3 月

第 3 期宮前区区民会議委員長 山下 浩

# 目次

## 第1章 第3期宮前区区民会議からの提案

～宮前区を「住む」から「暮らす」まちへ～

1. 提案の概要
2. 提案の詳細
  - 1) 坂道を活かした地域の活力づくりに関する提案
  - 2) コミュニティへの参加を促す雑誌と情報戦略に関する提案

## 第2章 第3期宮前区区民会議の審議経過

1. 全体会と企画部会
  - 1) 全体会
  - 2) 企画部会
2. 専門部会
  - 1) 活力づくり部会
  - 2) 地参知笑部会ちさんちしょう

## 第3章 第4期以降に向けて

1. 地域課題の把握方法
2. 審議対象課題
3. 全体会の会議運営
4. 専門部会の会議運営
5. 区民会議から提案された課題解決策の取組と進行管理
6. その他

## 資料編

- 提案への取組状況
- 各種資料

# 第1章 第3期宮前区区民会議からの提言

## 1. 提案の概要

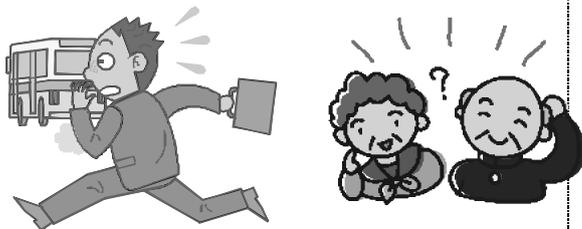
### 当面の目標

宮前区の基礎力アップ！地域社会の土壌づくりをしよう！

- ・区民が「宮前区」を意識する機会を多くし、地元への愛着や帰属意識をつくる
- ・地域社会と接点を持ち、地域社会に参加する人たちを増やす

### ターゲット

①宮前区に住んでいる or 長年住んできたが、これまでは特に地域社会と関わらないで来た人たち



例) 会社人間、シニア世代

②地縁・血縁があるわけではなく、田園都市線のイメージに惹かれなんとなく宮前区を選んだ人たち



例) 子育て世代、田園都市線マダム?

③核家族や共働きなどで、宮前区は単に寝るだけになってしまっている人たち



例) 川崎都民

④宮前区に引っ越して来たばかりの人たち



例) 転入者、子育て世代

### アプローチ

まずは「宮前区」に対してポジティブな気持ちを持ってもらおう

- ・「宮前区での生活の楽しみ方」、「このまちとの上手な付き合い方」などを打ち出し、「楽しそう」「面白そう」「好奇心が湧く」「共感できる」といったポジティブな感情を起こすことで、興味を持ってもらおう！
- ・そして、実際に宮前区での生活を楽しんだり、それを支えている「人」と交流したりすることで、無理なく自然と地域社会に入って来てもらおう！

## 活力づくり部会からの提案

宮前区の特徴である坂道を活かし、まちの魅力づくりや健康づくりなどの活力づくりにつなげるための検討をしました。

提案

宮前区の坂道を知ってもらおう  
坂道を使ったイベントをしよう



### ▲取り組むべき課題

- × 区内の由緒ある坂道の存在や場所が知られていない
- × 坂道を活用したイベントがない
- × 健康づくりにつながるなどの坂道の価値が知られていない

### ★目標

- 坂道を活用して・・・
- ◎ 地域への参加を促そう
  - ◎ 宮前区に愛着を持ってもらおう
  - ◎ 健康な体づくりをしよう

### 【具体的な実施内容】

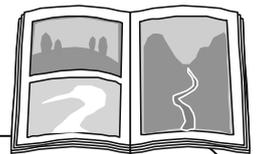
①	(仮称)みやまえ坂道ウォークの作成	坂道の魅力を広く紹介するとともに、坂道の起伏を利用した健康づくりについての情報をまとめたガイドブックを作成します
②	坂道ウォーキングイベントの開催	区内坂道への興味を引き、楽しんでもらうとともに、日常的な健康づくりにつなげるため、坂道を活用したイベントを開催します

## 地参知笑部会からの提案

幅広い意味で「地」域の産物を活かし、地域の魅力を「知」り、地域社会への「参」加につなげ、「笑」顔の広がるまちにしていくための検討をしました。

提案

宮前区の魅力や楽しみ方を発信しよう  
宮前区の地域情報を戦略的に発信しよう



### ▲取り組むべき課題

- × 地域になじみが薄く、「住む」だけの区民が多い
- × 地域コミュニティに参加し、「暮らす」ための情報が不足
- × これまでの情報発信のやり方では区民に伝わらない

### ★目標

- 効果的な情報発信を通じて・・・
- ◎ 宮前区の魅力やまちの楽しみ方をもっと知ってもらおう
  - ◎ 宮前区に愛着を持ってもらい、地域コミュニティへの参加を促そう



### 【具体的な実施内容】

①	地域コミュニティへの参加を促す冊子の作成	転入者や川崎都民が、興味を持って読んで実際に参加してみたいくなるような、魅力的でワクワク感のある冊子を作成します
②	「みやまえ情報サポーターズ」を結成	さまざまなメディアを使いながら、宮前区の魅力的な地域情報を区民の目線から継続的に発信する仕組みをつくります

## 2. 提案の詳細

### 1) 坂道を活かした地域の活力づくりに関する提案

#### 1 提案の背景

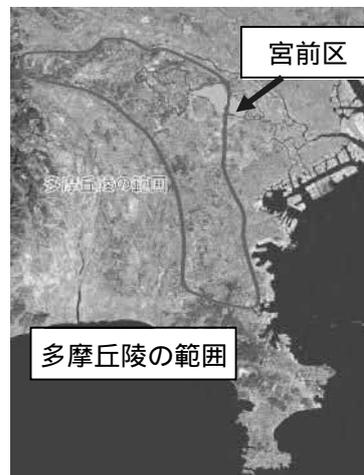
##### (1) 宮前区を特徴づける坂道

宮前区は、川崎市北西部に位置し（右図）、なだらかな丘の続く多摩丘陵の東の端にあって起伏に富んだ地形が特徴となっています。

そのため、通勤・通学や買い物、散歩などの日常生活で、必ずといっていいほど坂道を通らなければならず、坂道は宮前区での暮らしに密接に関わっているといえます。

宮前区では、平成 11(1999)年度から 12(2000)年度にかけて、18 箇所の坂道を選び、その愛称を区民から募集しました。そして、それぞれの坂道に名称や成り立ちを示した標識を建てました（下写真）。

この他、古くからある坂道を合わせると、38 箇所に名称が付いていますが、名称のない坂道も多数あります。



出典：川崎市緑の基本計画 (H20年3月)を加工

#### 坂道の標識

【庚申坂】



【富士見坂】



【八幡坂】



##### (2) 坂道をポジティブに捉える動き

坂道は一般的に、登りは疲れ下りは危なく、歩行や自転車での移動の妨げになるなどマイナスイメージが持たれます。そのため坂道は、尾道市や長崎市などの観光名所を除いて、これまでは地域資源としての認識は十分ではありませんでした。また、高齢化の進展を考えると、マイナスイメージがさらに強くなります。

こうしたマイナスの地域資源を逆にポジティブに捉え、うまく利用している地域があります。例えば、同じく坂道の多い座間市では、座間青年会議所が中心となって、「ZAMA 坂道マラソン」を



第1回 ZAMA 坂道マラソンのパンフレット

開催しています。試行錯誤しながら運営しているとのことですが、300人以上の参加者が集まり、大変な盛り上がりを見せています。

このように、日常生活にマイナスの影響を与えがちな坂道も、見方を変えれば、プラスの効果をもたらす地域資源になることがわかります。

### (3) 高齢化と健康づくりへの関心

宮前区の高齢化率は平成 23(2011)年度現在で約 15%ですが、5 年後には約 20%になることが予測されています。また、単身高齢者が増加し、自宅に引きこもりがちになることが懸念されています。

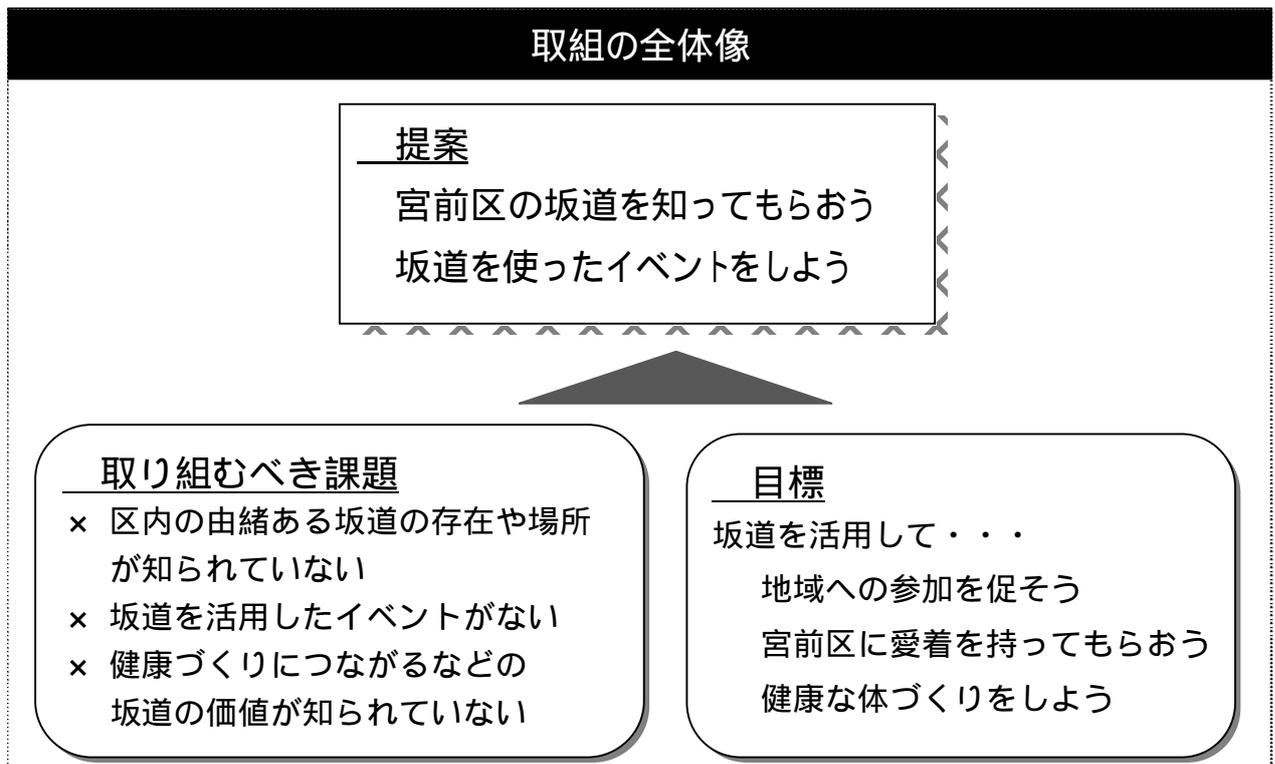


宮前区では、高齢者の健康維持・増進、介護予防などのため、地域住民が主体の公園体操の普及に努めています。平成 19(2007)年度に 23 会場だった公園体操（上写真）が、23 年 10 月時点では 38 会場に増え、高齢者の健康づくりへの関心の高まりが表れています。

また、中高年の生活習慣病やメタボリックシンドロームの予防に向けて、ウォーキングやジョギングなどにより日頃から体を動かす習慣を身につけておく必要があります。

## 2 提案

活力づくり部会では、宮前区の特徴ともいえる坂道を活かし、まちの魅力づくりや健康づくりなどの、地域の活力づくりにつなげるための検討を行い、2つの提案をまとめました。



### 3 提案の具体的な内容

**提案** : 宮前区の坂道を知ってもらおう

実施内容

#### 「(仮称)みやまえ坂道ウォーク」の作成

歴史的由緒のある坂や美しい並木道がある坂道など、坂道の魅力を広く紹介するとともに、坂道の起伏を利用した健康づくりについての情報をまとめたガイドブック、「(仮称)みやまえ坂道ウォーク」(以下「坂道ウォーク」)を作成します。

#### 【趣旨・目的】

- 宮前区の特徴である坂道は、標識のある18の坂道が「みやまえばーたろう」の特集「坂道は続くよ、どこまでも」で紹介されるなど、一定のPRはなされているものの、地域資源として積極的に活用するまでには至っていません。
- 地域資源として坂道が認識されるには、「どこに18の坂道があるか」、「どのように回って行けば良いか」、「どのような魅力があるか」、「どのくらいの距離・時間になるか」、「どのように健康的づくりにつなげるか」などの情報を、包括的かつシンプルに発信していくことが必要となります。
- 坂道ウォークは、こうした情報を発信し、日常生活や余暇に活用してもらい、坂道の良さを知ってもらおうという効果が期待されます。

#### 【「坂道ウォーク」の内容】

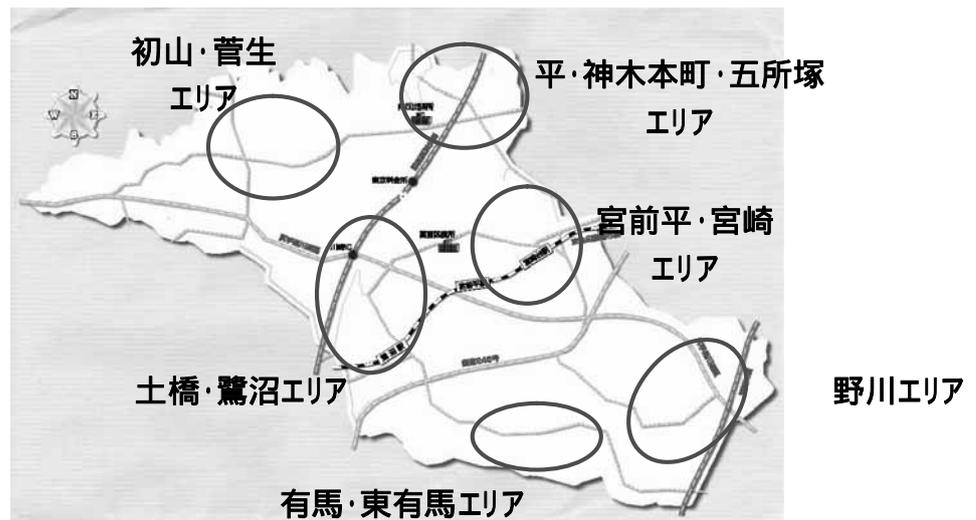
- 標識のある18の坂道を通るウォーキングコースを6コース紹介(次ページ図)。1コース2時間程度で歩けるようにします。
- 地図や解説に加え、次のようなウォーキングに必要な情報、楽しく歩くための情報を簡潔にまとめます。

#### 【掲載情報】

坂道データ(歩数、長さ、高低差)、四季折々の自然や景色、歴史、公園・トイレ・休めるところなど

- 坂道の歩き方や健康づくりに関する情報  
(膝の曲げ具合、呼吸法、消費カロリー計算方法など)
- 坂道ウォーキングの準備に関する情報  
(ウォーキング時の服装や持ち物、準備体操など)
- スタンプコーナーなど、日常的に坂道に親しめるような仕掛けのページ

6コースの  
対象エリア



【作成主体】

平成 23 年 9 月に活力づくり部会委員の有志によるワーキンググループを立ち上げ、「坂道ウォーク」のたたき台を作成しました。

平成 24 年度は、これを基に、活力づくり部会にいた委員が関わりながら、「坂道ウォーク」を完成させます。

【完成時期】

完成は平成 24 年夏ごろを目標とし、区制 30 周年に合わせて出版します。

【「坂道ウォーク」のPR】

「坂道ウォーク」を普及させ、多くの区民に坂道ウォーキングのイベントに参加してもらうため、効果的にPRを実施する必要があります。

- 区内公共施設で坂道ウォークを配布するのはもちろんのこと、宮前区在住の著名人や川崎フロンターレなどの協力を得て、坂道ウォーキングのメリットをPRしてもらいます。
- 宮前区のポータルサイト「みやまえぽーたろう」やソーシャルメディア、マスコミを積極的に活用したりするなど、多様なメディアを活用したPRを行います。

※なお、地参知笑部会で提案された、区の情報発信を担う「(仮称)みやまえ情報サポーターズ」の実践活動の一環として、多様なメディアを活用した情報発信を位置づけています。



どから広く提案を募集した後、採択された提案を実際に当該団体が区役所と協働して実施する制度です。

#### 【実施内容】

区民会議では、実施内容として次のようなアイデアが出されました。

##### ●坂道ウォーキング大会

四季を感じられる、また、野菜、歴史、景色の良い場所など地域資源のテーマを設定するなど、宮前区の良いところに触れることができるウォーキングイベント

##### ●坂道スタンプラリー

いくつかの坂道を回ると1つの文字になる、写真クイズで同じ坂道風景の写真を撮るなどのクイズ形式

##### ●坂道健康教室

坂道の歩き方、準備運動や整理体操、消費カロリーの計算方法等の健康づくりに関する情報を実践しながら学べる教室

##### ◆イベントの企画や運営上の工夫として・・・

一人でも気楽に参加できる、親子で楽しめる、自分のペースで歩ける、達成感がある、主催者を変えることでマンネリ化とスタッフの参加疲れを防ぐ、完歩者への景品、スマートフォンやQRコードの活用など

#### (留意事項)

最初から、数百人が一斉にスタートするような大規模なイベントの開催を目指すのは、安全確保や参加者の誘導などの運営上、難しい面もあります。

最初は参加者をスタート時間や日程で分散させたり、期間を広く設定したスタンプラリーを実施したりしながら実績を重ね、ノウハウの蓄積や区民の坂道への理解が浸透した段階で、大規模なイベント（発展形としての坂道マラソン大会も含む）の開催を目指すことが現実的であると考えられます。

#### 【開催頻度】

イベントは、年1、2回程度の実施を想定します。

#### 4 活力づくり部会の検討経過

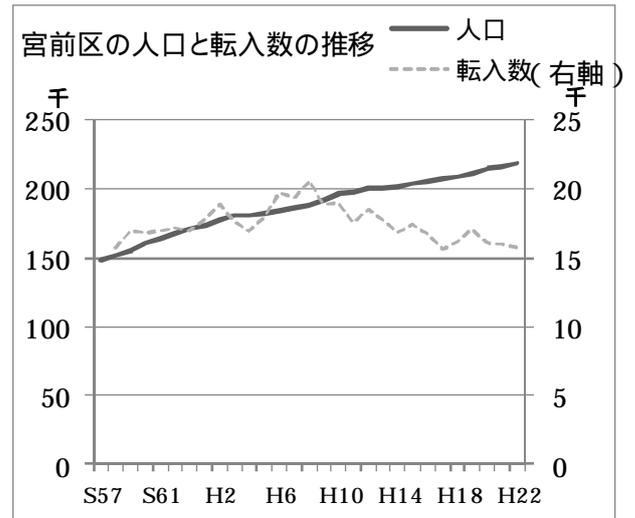
第1回	平成22年8月31日(火)
	・宮前区らしさ・地域特性を活かしたコミュニティづくりのイメージ 等
第2回	平成22年9月30日(木)
	・地産地消の具体的な題材 ・部会名称と部会長
第3回	平成22年12月2日(木)
	・地産地消を通じたコミュニティづくり ・部会の名称
第4回	平成23年1月28日(金)
	・コミュニティづくりにつながる仕掛けづくり ・区民会議フォーラムの開催について
第5回	平成23年3月2日(水)
	・コミュニティづくりにつながる仕掛けづくり ・区民会議フォーラムの開催について
第6回	平成23年4月25日(月)
	(仮称)坂道ウォーキングガイドのコンセプト、対象の坂道、コース設定
第7回	平成23年5月24日(火)
	・委員が作成した坂道ウォーキングコースの報告 ・ガイドのコンセプトやコース設定、掲載情報など
第8回	平成23年7月7日(木)
	・ガイドのコンテンツ(コース、目次・主な項目) ・ガイドの制作体制とスケジュール
第9回	平成23年9月7日(水)
	・ガイド作成のワーキンググループの活動計画 ・ガイドを活用したイベント等の検討
第10回	平成23年10月21日(金)
	・ワーキンググループからの報告 ・提案素案の検討
第11回	平成24年1月31日(火)

## 2) コミュニティへの参加を促す雑誌と情報戦略に関する提案

### 1 背景と課題

#### (1) 転出入者や川崎都民が多い宮前区

- 宮前区では毎年7千世帯(約1万6千人)が転入していますが、これらの世帯は地域に知り合いがいない場合が多く、孤立しがちです。学齢児のいる世帯が子どもを通じて地域に関わる機会を持つのに対し、特に乳幼児を抱える世帯や高齢者世帯では、地域に関わるきっかけが少なく、転入後も孤立が続く恐れがあります。
- 宮前区では平日は都内に通勤・通学し、休日は東京や横浜など宮前区以外を買い物やリクリエーションの場とする「川崎都民」が多くなっています。これらの層は宮前区への関心が低いため情報が届きにくく、宮前区に存在する魅力的な地域資源を認識していない状況にあります。
- こうした、地域で孤立した人や宮前区に「住む」だけの人の増加が、地域コミュニティ希薄化の一因になっていると考えられます。



#### (2) 宮前区で「暮らす」ための情報提供が必要

- このような状況から、地域へのなじみの薄い人に、宮前区で単に「住む」だけでなく、地域との関わりを持ったり、宮前区の産物や行事を楽しんだりできるような、「暮らす」ための情報提供を積極的に行うことが課題となっています。
- これまでも区・市や民間企業が、地域情報を紹介するパンフレットやマップを発行してきましたが、内容が似通っていたり、興味を引くような記事や紙面構成になっていなかったりするケースがありました。
- インターネットの情報発信については、宮前区の地域ポータルサイト「ぽーたろう」がありますが、区民に十分に認知されていない面があります。また、若者を中心に、さまざまなソーシャルメディアを使って、口コミ情報を交換したり、同じ関心を持つ人同士でつながり合ったりする動きが広がっています。
- 今後は、転入者や川崎都民と言われる人たちに、宮前区で「暮らす」ためのわかりやすい情報を、紙媒体やインターネット等を組み合わせて、さまざまなチャンネルから効果的に伝達していく必要があります。

#### (3) 宮前区に愛着を持ち、地域への参加を促すコンテンツが必要

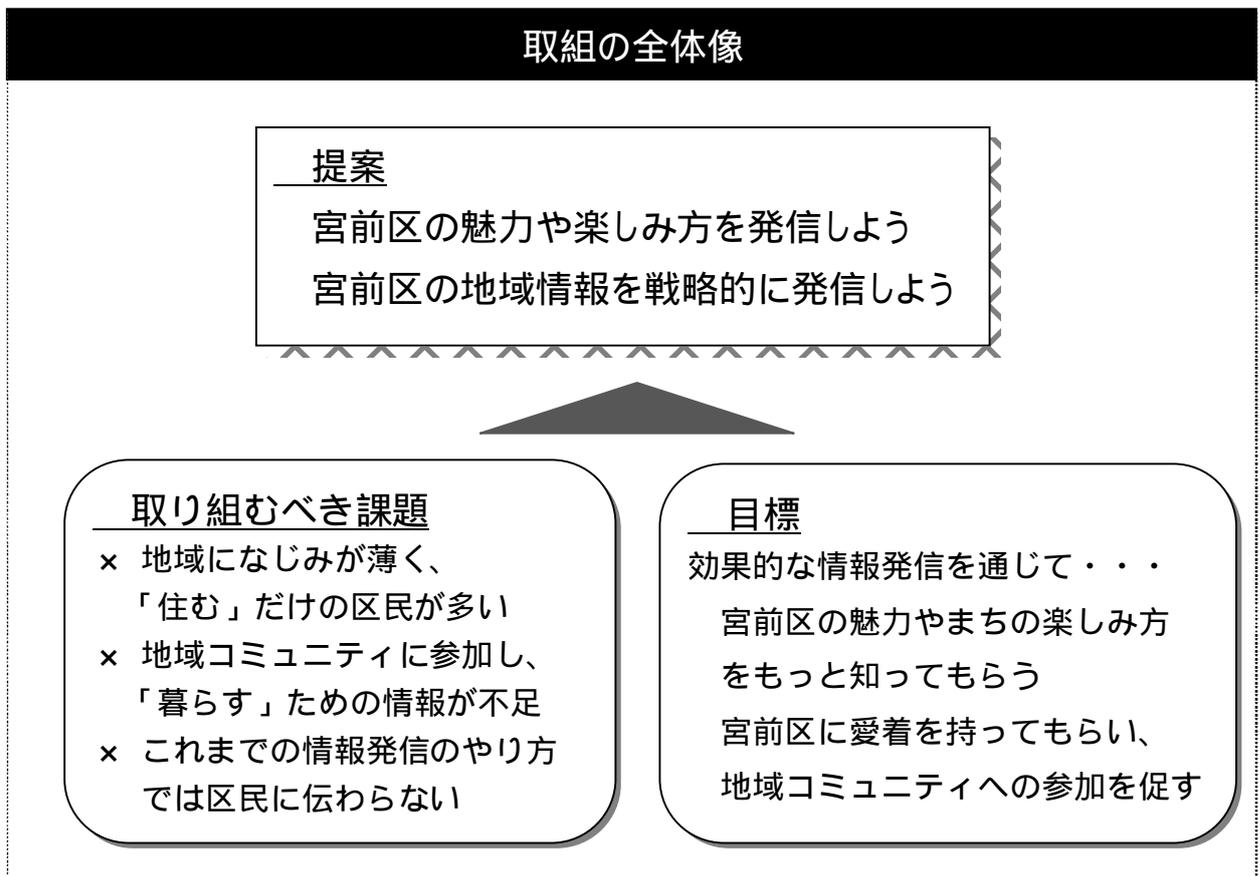
- 情報提供においては、「送り手」からの視点で地域情報を一方的に流すだけで

は、情報に対する興味は持たれませんし、そもそも情報にアクセスしてもらえないかも知れません。こうした従来型の手法の延長では、地域での孤立や宮前区への無関心といった問題の解決はあまり期待できません。

- これからは、情報を受ける側の視点で魅力的なコンテンツを作成していくことが大切です。そのためには、これまで「受け手」であった人たちに、情報提供のコンテンツをつくる過程に参加してもらい、さらに、そのコンテンツを見た人たちに地域への参加を促す仕掛けを盛り込むなど、さまざまな工夫をしていく必要があります。

## 2 提案

地参知笑部会では、幅広い意味で「地」域の産物を活かし、地域の魅力を「知」り、地域社会への「参」加につなげ、「笑」顔の広がるまちにしていくための検討をして、2つの提案をまとめました。



### 3 提案の具体的な内容

#### 提案：宮前区の魅力や楽しみ方を発信しよう

##### 実施内容

#### 地域コミュニティへの参加を促す雑誌の作成

転入者や川崎都民が、興味を持って読んで実際に参加してみたいくなるような、魅力的でわくわく感のある雑誌を作成します。

#### 【趣旨・目的】

- ・宮前区になじみの薄い区民（特に新住民や川崎都民など）をターゲットに、宮前区の魅力（モノ・場所・活動・人）やまちの楽しみ方を紹介することにより、宮前区に愛着を持ち、地域への参加を促すことを目的に制作します。
- ・インターネットが普及した現在においても、紙媒体による情報は年代を問わずに受け入れられる情報媒体であるため、この雑誌を地域情報発信の第1のステップとして位置づけます。

#### 【雑誌作成主体】

- ・区民を募り、地域情報の発掘・取材・記事化して作り上げていきます。
- ・しかし、こうした雑誌作りのノウハウを持つ区民は限られていますし、限られた人に依存しては、情報発信の裾野が広がりません。そのため、人材育成を図りながら、市民館と区役所が連携した「(仮称)みやまえ情報サポーターズ養成講座」を開設し、その実践プログラムの一環として雑誌を作成していきます。 **PO参照。**

#### 【掲載する情報】

- ・雑誌のコンセプトは、次のとおりです。
  - ①コミュニティへの参加を促すものとする
  - ②項目ごとにターゲットとなる読者を明確にする
    - ・転入者や川崎都民など、情報が届きにくい層
    - ・高齢者や子育て世代などの世代別などの切り口
  - ③個々人がほしい情報をわかりやすく伝える
    - ・ガイドブックのガイドブック的なイメージ
    - ・10分程度で一通り読めるくらいのボリューム
    - ・顔の見える親しみやすいものにする
    - ・読み物としても面白いものとする

- ・このコンセプトを基に、区民会議でイメージをまとめましたので、これをベースに、作成を担う講座参加者（※提案2で説明）のアイデアを取り入れながら作り上げていきます。

### コンテンツのイメージ

- 1 世代別レポート  
地域に参加している世代別の区民を取材したり、様々なことを体験してもらい、そのレポートを記事にして掲載します。
  - ①中高生・大学生
  - ②若い（子育て）世代
  - ③働き世代
  - ④高齢世代
- 2 体験できるページ
  - ・いちご狩りやお祭りの時の神輿担ぎ等、区内で誰でも体験できるイベント等の情報を掲載します。体験を通して、その土地となじむことができ、地域とのつながりのきっかけになるような内容とします。
  - ・町会・自治会と関わるきっかけとなったり、市民館等での学習の機会を通じて知り合い・仲間をつくったりするような視点も考えられます。
- 3 ゲーム等
  - ・**ゲームの基本設計を具体的に記載**
  - ・スタンプラリーや謎解きゲーム等、単に読むだけでなく気軽に参加できる内容を掲載します。区民会議から生れた「みやまえカルタ」等との連携でも考えられます。
  - ・住民・企業・団体・行政が連携した仕掛けにより、情報発信から地域づくりに発展させることができます。例えば、商店街等とタイアップして、スタンプラリーのスタンプ拠点をお店にすることによって、地域の活性化も期待できます。
- 4 ガイドブックのガイド  
これまでに区や市が発行した地域情報に関する雑誌のリストを掲載します。よりくわしい内容はこれらの雑誌で得てもらうようにします。PO参照。
- 5 宮前区のプロフィール・概要  
宮前区の人口、面積等のプロフィールや、特徴を表すデータ等をコラム的に掲載します。また、宮前区はエリア別に特徴があるので、それがわかる情報も掲載します。

#### 【ページ数、部数等】

- ・A4判、オールカラーで20ページ程度とします。
- ・毎年1万部印刷し、転入世帯への配布を中心に、公共施設で配布するとともに、区ホームページに掲載します。
- ・平成24年度中に作成し、3年程度を目安に改定します。

## 【スケジュール】

- ・「(仮称)みやまえ情報サポーターズ養成講座」は、次のようなスケジュールを想定します。

平成24年3月 公募開始

平成24年4～5月 講座スタート

- ・15回程度

- ・他に取材や任意の打ち合わせを行う

平成25年3月 雑誌発行

## 【作成協力】

- ・雑誌作成にあたっては、講座において雑誌の趣旨を理解してもらったり、受講生が取材する人・場所や、地域資源についてのアドバイスしてもらうなどの協力が必要です。地域に精通した区民会議委員が、これらを紹介するなどの協力をするものとします。

## 【その他】

- ・開催日時は平日の午前中として、主婦層やリタイア層を主な対象と想定します。
- ・具体的なプログラムを今後検討していきます(1月には案を示す)。

## 提案 : 宮前区の地域情報を戦略的に発信しよう

### 実施内容

### 「みやまえ情報サポーターズ」を結成

さまざまなメディアを使いながら、宮前区の魅力的な地域情報を区民の目線から継続的に発信する「みやまえ情報サポーターズ」を結成します。

## 【趣旨・目的】

- ・地域の魅力や楽しみ方を、市民や地域が主体となって発信しようとする動きが広がっています。例えば新百合ヶ丘では、大学生と地元タウン紙が協力して、大学生の視点から見た新百合ヶ丘のガイドブック「しんゆり Campus」(右写真)を制作しています。ここでは、しんゆりデートプランやリーズナブルでおいしいを大学生の視点から、大学生の言葉で紹介しています。こうした情報発信は、公平性やバランス感覚を重視する行政からは、出にくい面がありますので、市民や地域



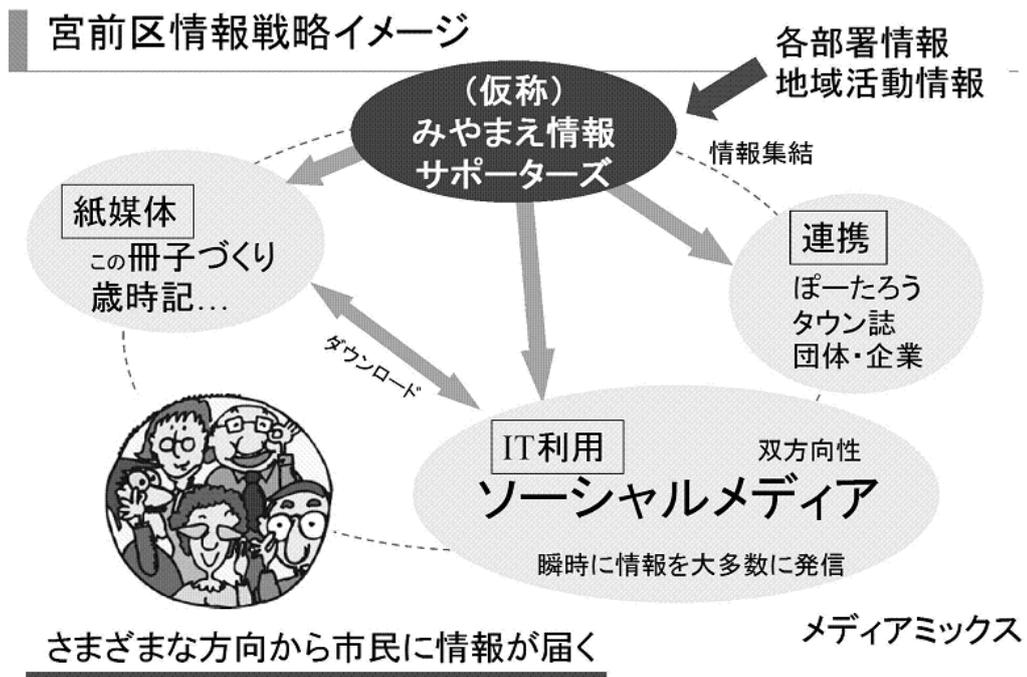
が主体になっているからできるものと考えられます。

- また、近年の youtube などの動画配信や facebook（下写真）、twitter などのソーシャルメディアの興隆とともに、誰でも不特定多数の人に情報発信し、関心のある人同士がつながり合えるようになってきています。それらを活用して、地域のオススメ情報や口コミ情報を発信する動きが各地で活発化しており、これまで主流であったマスメディアや紙媒体による情報発信に匹敵するものになりつつあります。
- 宮前区においても、「みやまえぽーたろう」をはじめとする地域情報サイトや宮前区観光協会の情報誌「宮前の風」などがありますが、新百合ヶ丘周辺の取組などと比較して、地域や区民を巻き込んだ動きや仕組みが十分ではないのが現状です。



**【実施内容】**

- これからの情報発信は、地域や区民を巻き込み、さまざまなメディアを効果的に活用して戦略的に展開する必要があります。そこで、広く区民に呼びかけて、地域で楽しむことに興味のある区民が気軽に参加し、こうした人たちの視点から継続的に情報発信する仕組みとして、「(仮称) みやまえ情報サポーターズ」を結成します。



## 【結成や活動の流れ】

### 講座を通じた人材育成

- 「(仮称) みやまえ情報サポーターズ講座」では、講座の受講生が「(仮称) コミュニティの参加を促す雑誌」を作成しますが、それに加え、ソーシャルメディア (SNS、ブログ、twitter、youtube、Ustream 等) についても学びます。
- さらに、様々な媒体を活用した効果的な情報発信・情報共有の戦略についても学び、その実践訓練として、雑誌の作成経過や雑誌に掲載する内容を発信していきます。
- こうした活動を経て、ソーシャルメディア活用のノウハウを身に付けます。



### (仮称) みやまえ情報サポーターズの結成

- 講座の受講生の有志を中心に、活動に関心のある人も募り、雑誌作成後も継続的に情報発信する「みやまえ情報サポーターズ」を結成します。
- みやまえ情報サポーターズは平成 24 年度内に行う講座が終わった後も自主的あるいは組織的に情報収集や取材をして、それをソーシャルメディア等で発信していきます。
- ソーシャルメディア等での関心のある人同士のコミュニケーションやネットワーク化の中で、みやまえ情報サポーターズのコンセプトに共感を持つ人を増やしていきます。



### 継続的な情報発信

- これらにより実績・経験を重ね、みやまえ情報サポーターズが中心となって新たな付加価値のある情報が、継続的に発信されることが期待されます。
- 活動の展開として、「(仮称) コミュニティの参加を促す雑誌」改定版の制作や「歳時記みやまえ」の編集への参加なども想定されます。

## 【スケジュール】

みやまえ情報サポーターズは、平成 25 年度の早い時期の結成が期待されます。

## 【課題】

- みやまえ情報サポーターズを結成するにあたり、その枠組をどうするかによって、活動形態や資金についての考え方が変わってきます。

緩やかなネットワーク ⇔ 既存組織が受け皿 ⇔ NPO などの組織体

- ◆ 活動形態 (個人の自由な活動 ⇔ 組織的な活動)
- ◆ 活動領域 (個別の情報収集・発信が中心 ⇔ 地域連携などへの展開も)
- ◆ 資金 (資金需要小 ⇔ 資金的な裏づけが必要)

- ・みやまえ情報サポーターズの状況（人数・能力・メンバーの意向）、受け皿となりうる組織の有無、区役所との関係などの各要素を整理し、メンバーが活動しやすい環境をつくる必要があります。

#### 4 地参知笑部会の検討経過

第1回	平成22年8月31日(火)
	・宮前区らしさ・地域特性を活かしたコミュニティづくりのイメージ 等
第2回	平成22年9月30日(木)
	・地産地消の具体的な題材 ・部会名称と部会長
第3回	平成22年12月2日(木)
	・地産地消を通じたコミュニティづくり ・部会の名称
第4回	平成22年1月28日(金)
	・コミュニティづくりにつながる仕掛けづくり ・区民会議フォーラムの開催について
第5回	平成23年4月15日(金)
	・宮前区に愛着をもち、地域への参加を促すための雑誌
第6回	平成23年5月16日(月)
	・委員が作成した目次案の報告 ⇒ 目次案のまとめ
第7回	平成23年6月14日(火)
	・コンテンツのイメージと制作体制の検討
第8回	平成23年7月15日(金)
	・雑誌の制作体制と区の情報戦略の検討
第9回	平成23年9月28日(水)
	・区の情報戦略について ・コミュニティへの参加を促す雑誌について
第10回	平成23年11月2日(水)
	・提案素案の検討
第11回	平成24年1月27日(金)
	・提案の検討

# 平成23年度 宮前区区民会議フォーラム 進行について（案）

## 1 日時

平成24年3月24日(土) 午後1時30分から4時10分ごろ

## 2 場所

宮前区役所大会議室

## 3 目的

- 第3期宮前区区民会議の活動内容を知ってもらう
- 宮前区に目を向け、コミュニティづくりにつなげる方法を考える

## 4 内容

- アトラクション 落語 15分程度
- 区民会議からの報告 40分程度
- 事例紹介とディスカッション 85分程度

### 【内容のイメージ】

#### ①アトラクション

- ・宮前区区民会議のテーマであるコミュニティや宮前区の産物を絡めた落語
- ・気軽に参加してもらい、参加者の緊張をほぐすことが目的

#### ②区民会議からの報告

- ・区民会議の仕組みの説明と第3期区民会議提言の報告を行う
- ・みやまえ情報サポーターズ養成講座への参加を呼びかけ

#### ③事例発表と意見交換

(テーマ) 宮前区を「住む」から「暮らす」まちへ

(コーディネーター) 佐谷先生

(発表者) ●タウンニュース川崎支社 支社長原田氏 (10分)

- ・日ごろの活動(ネタ探し、取材など)
- ・日ごろの活動を通じて知った宮前区の魅力
- ・読者に伝わる効果的な情報発信の秘訣

●ひまわりサロン実行委員長 齊藤氏 (15分)

- ・立ち上げから現在までの経過
- ・被災者や支援者への呼びかけの方法
- ・サロンを通じたコミュニティの状況、今後の展開

●自治会か商店会か市民活動団体(部会で検討)(10分)

(意見交換) 「住む」から「暮らす」まちにするにはどうすればよいか

- ⇒区民会議提案である情報発信や地域資源の活用を切り口に
- ※佐藤部会長と持田部会長も意見交換に加わる

## 5 その他

- ・第2期提言「みやまえカルタ」や「冒険遊び場」の活動状況などの展示
- ・休憩時間は、来場者参加のミニ「みやまえカルタ」大会。ティータイムも。

## 6 スケジュール

時間	内容	役割分担
12:40	集合・設営 リハーサル	全員
13:10	開場・受付	受付係
13:30	開会・区長あいさつ・流れの説明	区長 総合司会：恒川副委員長
13:35	アトラクション 落語 「古典落語と長屋の暮らし」	喜楽亭笑吉さん (社会人落語家)
13:50~ 14:30	区民会議の仕組み、提案の説明 プロジェクター等で25分程度 会場との質疑応答 15分程度	報告：直本副委員長 佐藤部会長 持田部会長
【休憩15分】 ミニ「みやまえカルタ大会」 ティータイムで一息		ティータイム班 カルタ班
14:45~ 16:10	事例発表 35分程度 意見交換 40分程度 会場との質疑応答 10分程度	コーディネーター 佐谷先生 事例発表者 原田さん、齊藤さん 〇〇さん ※意見交換で山下委員長、佐藤部 会長、持田部会長も加わる
16:10	委員長総括・閉会	山下委員長
16:45?	撤収・解散	全員

## 7 役割分担：区民会議委員全員で運営しよう！

	活力づくり	地参知笑
会場設営・撤収	全員でやりましょう！	
受付係		平井委員
総合司会	恒川副委員長	
ティータイム対応班		河井委員
カルタ班		持田委員
		久保委員